

令和4年度 事業計画の実施状況

(1) 教 育 面

○ 教 育 目 標

建学の精神「礼節を尊び、地域に貢献できる有為な人材の育成」に基づき、校訓「至誠・創造」の趣旨を体して、心身ともに健全で心豊かな人間を育成するとともに、使命感と正しい判断力を持つ意欲旺盛な人間の育成に努める。

1. 教育学習面改善のための取り組み

(1) 教育充実のための取り組み

令和4年度より、高校は特進コース・総合コースに改編し、また、併設中学からの内進生が特進コースⅠ・Ⅱ類へ接続することに伴い、それぞれのコースの特色を生かし、生徒のニーズに合った進路保証を推進し、社会に有用な人材育成を目指す。

(2) 各コース等の特色化

① 特進コース

- ア) 大学入学共通テストに対応すべく、5教科の知識・技能をバランスよく学び、さらに思考力・判断力・表現力を身に付ける。
- イ) ICTを活用した授業を通じて日常的に主体性・多様性・協働性を身に付ける。
- ウ) 教科学習と並行して、外部との活動を通じ、社会につながるスキルを身に付ける。

② 総合コース（進学コース）

- ア) 基礎学力を確立し、得意科目をさらに伸ばす。
- イ) 多様な進路希望に合わせて一人ひとりの個性を伸ばす。
- ウ) 高大連携や体験学習を通じて、希望進路の実現を目指す。

③ 中学部

- ア) 高校がある中学の良さを活かせるような教育活動を推進する。
- イ) 英語に特化した教育活動を研究・再構築する。
- ウ) 一人一台タブレット環境のメリットを引き出す環境整備と運用を図る。

(3) 研修体制の確立

- ① 初任者（教職経験5年以内程度）研修の充実
現在の初任者研修を改編し、研修内容の充実を図る。
- ② ICT教育研修の推進
教科指導例の情報収集、研究及び実践を学ぶ。
- ③ 学年会議やコース会議・教科会議等の充実
生徒の情報共有や指導法の検討を充実させる。

→ 教育学習面改善のための取り組み（総括）

○ 全体として

授業でのICT活用が日常化した1年であった。

スマホやタブレット、電子黒板の活用。→来年度より生徒一人一台タブレットへ移行

コロナ禍で、学校を学びの場としての再認識

「学校というコミュニティへの所属感」「他者（教員や生徒）との繋がり」

○ **特進コース**

放課後の課外活動に探究的な活動を取り入れることができた。

台湾の中山工商との交流、高大連携出前授業、大学見学、全国模擬裁判選手権出場、静岡県高校生サミット出場

○ **進学コース**

多様な進路希望に対応し、大学や看護学校受験指導、就職指導などきめ細やかに対応できた。各種検定への挑戦

○ **中学部**

コロナ禍で行事が制限される中、様々な工夫が見られた。

英語の多読 中学生委員会 セルフディスカバリーチャレンジ NIE

2. 学習支援のための取り組み

国が推進する教育改革に対応すべく、アクティブラーニングを取り入れるなど生徒が能動的に学習に取り組んでいけるように、整備されたICT環境を活用し授業改善を図る。

(1) 学習支援の充実

多様な表現活動と学習意欲を高めるカリキュラムの充実を図り、知識・技能の習得を基に思考力・判断力・表現力を育成するための工夫を全教員・全教科に取り入れる。

① 新教育課程の学年進行による円滑な実施

② 生徒表彰制度の拡充

生徒の意欲を高め、積極的に英語検定、漢字検定など各種検定試験に挑戦させることにより学習の補助となる基礎知識の充実を図るためのモチベーションアップにつなげる。

③ 教育相談の充実

不登校又は教室へ入りにくい生徒へ対応をきめ細かくできるように努める。（火曜日と水曜日にスクールカウンセラーを配置）

④ 生徒理解の充実

面接週間だけでなく、適宜個人面談を行い、生徒一人ひとりを把握し、個々の生徒に応じた指導を実施する。特に、いじめの重大案件については、全校的な取り組みができる体制をつくり、迅速に対応できるように図る。

⑤ 保護者会活動が円滑かつ活発になるように協力する。

(2) ICT環境の活用と整備計画

① 生徒用端末機器の利用推進（中学）

② 一人一台タブレット導入の条件整備（高校）

③ 情報モラル教育の充実

情報機器や通信ネットワークを通じて社会や他者と情報をやり取りするにあたり、危険を回避し責任ある行動ができるようになるために身に付けるべき基本的な態度や考え方を養う。

(3) 教育のPDCAサイクルによる成果の可視化

学校改革を推進していくために、学校評価をより丁寧に行う。授業評価・保護者アンケート、学力分析によるPDCAで改善を目指す。また、教育目標の具体化・数値化を図り、より客観的な評価ができるようにする。

① 中間評価の実施

分掌・学年ごとの自己評価を中間評価として夏季休業中に行うことによってより迅速な改革につなげていく。また、年間計画を明確にすることによって、計画への取り組みを全体で共有できるようにする。総括として、一年間の成果と課題を明らかにし、関係者評価や分掌総括を行い、次年度への取り組みの指針とする。

② 保護者アンケート

③ 外部模試後の学力分析会の実施

④ 授業公開・研究授業の実施

保護者への授業の公開Weekを年2回設定し、学校公開を積極的に行うと同時に、保護者の視点での授業評価を真摯に受けとめ改善に取り組む。

(4) 国際交流の充実

グローバル化が進む中での教育には欠かせない教育活動である交流事業を推進し、留学生の受け入れを行い、国際交流と共に異文化理解も深めていく。

→ 学習支援のための取り組み（総括）

○ 全体として

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を促した1年であった。

「何を学ぶか」から「何ができるようになるのか」への転換→どのように学ぶか

○ ICT活用

リモート授業・課題・連絡等が当たり前になる

電子黒板を活用した授業の広がり→一斉学習は順調だが個別学習・協同学習に課題

○ 生徒理解

HR担任、学年主任、養護教諭、スクールカウンセラーの情報共有が図れた。

不登校、人間関係の悩み等を抱える生徒の増加

○ 国際交流

2名の留学生（独・米）を受け入れ 中山工商との交流

○ 学校評価と改革

中間評価の実施は2学期以降の活動の明確化につながった。

授業公開・保護者参観等を通して、様々な意見を教育活動に生かした。

○ 部活動

女子バレーボール部 春高バレー10年連続出場・高校総体、新人戦県大会優勝

男子バドミントン部 高校総体県大会3冠（S, W, 団体）

女子ソフトテニス部 個人戦で全国高校総体出場

東海大会出場（男子陸上競技部、男子ソフトテニス部、女子空手道部）

バトントワリング部 全国高文祭出場 バトン全国大会3年連続出場

女子将棋部 新人戦県大会優勝

3. 進路実現支援のための取り組み

(1) 進路指導の充実

確かな学力を定着させて進路選択を広げる。一人ひとりの進路希望を的確に把握して進路指導を推進する。

- ① 高大連携プログラム（神奈川大学・神奈川工科大学）の活用
連携校による説明会・講演会・出前授業・大学訪問等
- ② オープンキャンパスや大学訪問への生徒の積極的な参加促進
- ③ 大学の主催する教員用説明会への積極的な教員派遣及び生徒への情報提供の徹底
- ④ 就職希望者へのキャリア指導の充実（会社説明会や会社見学への参加促進等）
- ⑤ 進路学習（校内実施）に外部から講師を招き、進路選択の幅が広げられるよう務める。

(2) 進路実績の向上

日常的な放課後の補習（一斉・希望者・指名・個別）を効果的に実施し、更なる進路実績の向上を実現する。

- ① 国公立大学合格実績の向上（30名の合格を目指す）
- ② 私立大学合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す）
- ③ 看護学校・公務員等の合格実績の向上（前年度より上回る実績を目指す）
- ④ 就職内定率の継続（内定率100%の継続）

→ 進路実現支援のための取り組み（総括）

○ 進路実績

国公立大学 32名 大阪大(1) 千葉大(1) 電通大(1) 横浜市立大(1) 静岡大(3) 静岡県大(5)
静岡芸大(2) 山梨大(4) 都留文大(3) 信州大(1) 福岡女子大(1)
長野県立(1) 釧路公大(2) 弘前大(1) 新潟県大(1) 高知県立大(1)
前橋工大(1) 諏訪東京理科大(1) 静岡県農林大(1)

私立大学 早稲田大学(1) 東京理科大学(1) 明治大学(1) 立教大学(1)
立命館大学(2) 神奈川大学(5) 神奈川工科大学(1) 常葉大学(5)
日本大学(2) 静岡英和学院大学(2) 東海大学(5) 静岡産業大学(1)
静岡福祉大学(1) 静岡理工科大学(1) 聖隷クリストファー大学(1)
大妻女子大学(1) 山梨学院大学(1) 東京農業大学(2) 杏林大学(1)
帝京大学(1) 創価大学(1) 神田外語大学(1) 文教大学(2) 高千穂大学(1)
名古屋学芸大学(1) 目白大学(1) 日本福祉大学(1) 金沢学院大学(1)
国土館大学(1) 桜美林大学(1) 国際医療福祉大学(1) 拓殖大学(1)
明海大学(1) 東京聖栄大学(1) 千葉工業大学(2) 敬和学園大学(1)
関東学院大学(3) 川崎医療福祉大学(1) 松蔭大学(1) 名古屋学院大学(1)
愛知淑徳大学(2)

看護 静岡県大(1) 聖隷クリストファー(1) 川崎医療福祉大学(1)
富士市立看護(4)

短期大学 静岡県立大学短期大学部(1) 常葉大学短期大学部(3)
 日本大学短期大学部(2) 静岡英和学院大学短期大学部(4)
 小田原短期大学(2) 修文大学短期大学部(1)

専門学校 富士リハビリテーション(6) 沼津情報ビジネス(7) 静岡デザイン(5)
 静岡産業技術(3) 中央動物総合(2) 大原公務員医療観光(2)
 大原簿記情報医療(2) 国際ことば学院(1) 国際ペットビジネス(2)
 静岡県美容(6) 静岡福祉医療(1) 静岡医療秘書学院(1)
 ノアデザインカレッジ(1) ヒューマンアカデミー(1) 中央調理製菓(5)
 中央医療健康大学校(1) タカヤマアドバンスビューティー(3)
 静岡工科自動車(1) 中央歯科衛生士(1) ナゴノ福祉歯科医療(1)
 東京 IT プログラミング&会計(1) 日本工学院(1) 日本工学院八王子(2)
 ルネサンスデザイン美容(1) 東京自動車(1) 文化服装学院(1)
 横浜医療秘書(1) 横浜デジタルアーツ(1)
 横浜ビューティー&ブライダル(1) アフロートスクール美容(1) など

就職（100%内定）

- ・公務員 静岡県警察(1) 自衛官(1)
- ・事務職 東京電力パワーグリッド(1) 有隣厚生会富士病院(1)
 東海三菱自動車販売(1)
- ・技能職 テルモ(1) ジャトコ(3) アサヒ飲料(1) 三協(1) 三生医薬(4)
 アリメント工業(1) 東海カプセル(1) ケンコーマヨネーズ(1)
 大徳食品(2) マルスン(1) 町田食品(1) ジャトコツール(1)
 興国インテック(1) 日本軽金属(1) 日軽蒲原(2) 富士セラミックス(1)
 ユニプレス精密(1) アイエイアイ(1) 井上機工(1) ニッピ(1)
 東洋カプセル(3) 東京製紙(1) ジャトコエンジニアリング(1)
 天間特殊製紙(1) アコレ(1) いなば食品(2) パイオラックス(1)
 コバヤシ(1) 西山工業(1) 三幸コーポレーション(1) コーヨー化成(1)
- ・販売 ローソン富士(1)
- ・サービス他 喜生会(1) 休暇村富士(1) ここから(1) 百葉の会(1)
 静岡市社会福祉協議会(1) ANA スカイサービス(1)

4. 地域連携・地域貢献のための取り組み

全人格的な生徒の育成を目指し、教科での指導を超えた地域に根ざしたボランティア活動や部活動等を活性化するための環境整備を行う。特にコミュニティ研究会を基軸に地域貢献などを通して、年間を通して地域との共生を図る。また、希望者による施設訪問やボランティア活動を積極的に行う。

- ① 地元コミュニティへの行事参加、貢献活動
- ② 部活動による外部イベント時の演技・演奏活動を展開する
- ③ 施設訪問やボランティア活動の活性化

→ 地域連携・地域貢献のための取り組み（総括）

今まで以上に地域活動等に参加した年度となった。ボランティア活動の広がり・日常化
富士本町軽トラ市、エキキタテラスイベント参加、障子張替隊、網戸張替隊、海岸清掃
河川清掃、ひまわりバス活性化、青春メッセージ、FP 演劇祭、富士一小へ演奏会派遣
など

5. 生徒募集のための取り組み

在校生・卒業生が富士見で学んで良かったと思えるよう、全教職員が日々の教育活動を充実させるとともに、本校の魅力を改めて分かり易く整理し、富士見で学びたいという意欲が高い生徒を受け入れるために、あらゆる情報を多様な募集・広報活動で発信し、入学者の確保を図る。

- ① 入学者確保のための分析・戦略（高校は 90%以上、中学は 50%以上の充足率を目指す）
- ② 広報活動の活性化
- ③ 広報行事のアピール内容の強化（学校説明会・部活動建学会・体験入学等）
- ④ 中学校・塾との連携強化（学校訪問・塾訪問強化）

各校訪問・各中学校が主催する進路説明会への参加等を積極的に働きかける
大手の塾だけでなく中小の塾への対応をきめ細かく行う

- ⑤ 地域への啓発活動
- ⑥ ホームページや SNS を利用した広報活動の拡充

→ 生徒募集のための取り組み（総括）

○ 全体として

日常的な SNS の発信（フォロワーの伸び悩み twitter127 Facebook35 instagram155）
広報活動のさらなる強化 部活動見学会等

○ 中 学

令和 4 年度入学者 17 名から令和 5 年度入学者は 16 名と厳しい状況（定員 60 名）
・教育内容の工夫（多読・ALT 活用）

○ 高 校

令和 4 年度入学者 328 名から令和 5 年度入学者は 433 名と大幅増加（定員 400 名）
・総合コースの希望者が増加
大学進学から就職まで幅広いニーズに沿ったコース設計が受け入れられた。
・特進コースは横ばい
まだまだ国公立大学や難関私立大学へ進学できる期待感が薄い。早急に特進コースの改革をする必要がある。

(2) 財 務 面

「健全財政の堅持」の実現に努め、令和4年度決算では基本金組入前収支差額は「154,154千円」の黒字であった。基本金組入額「16,746千円」を計上したことにより、当年度収支差額は「137,408千円」となった。昨年度繰越額「1,923,401千円」と合わせて翌年度繰越収支差額は「2,060,809千円」となった。経常収入（1,031,895千円）に対し1.99倍（昨年1.94倍）の黒字となった。

- 令和4年度当初の学園規模は下表のとおりです。（令和4年4月1日現在）

	富士見中学校	富士見高等学校	合 計
生 徒 数	46名	922名	968名
専 任 教 員 数	5名	44名	49名
特 命 講 師 数	1名	7名	8名
常 勤 講 師 数	4名	14名	18名
特 別 講 師 数	—	1名	1名
非 常 勤 講 師 数	1名	13名	14名
英語指導講師数	—	2名	2名
専任事務職員数	1名	6名	7名
事務嘱託員数	—	4名	4名

- 人件費比率は、全国平均をやや下回っているのに対し、人件費依存率については学則定員充足率が70.1%（高校：定員1200名に対し922名 76.8%、中学：定員180名に対し46名 25.5%）と低い数値であるため全国平均をかなり上回っている比率になったと考えられる。

	令和4年度 富 士 学 園	令和3年度 全国高校法人平均
人 件 費 比 率 (対経常収入)	62.9%	64.1%
人 件 費 依 存 率 (対生徒納付金)	161.3%	120.6%
補正人件費依存率 (対生徒納付金+経常費補助金)	71.1%	72.2%

- 特定資産の取崩及び繰入について

第1号基本金の積立金として多額であった退職給与引当特定資産174,960,060円の取崩を行い、減価償却引当特定資産に82,370,181円、施設設備拡充引当特定資産に92,589,879円の繰入を行った。また、施設拡充引当特定資産へ既存校舎改築に備え、積み増し（837千円（令和4年度卒業生（279名）寄贈分）を行った。